

育ちと学びをつなぐ

掛川市教育委員会
園小中接続便り①
令和6年5月2日

4月の小学校新1年生の様子と小学校の取組を紹介します。

安心して小学校生活をスタート！～中央小～

子供たちが園で親しんできた生活リズムに配慮し、遊びを中心とした学びから1日がスタート。

4月は、朝活動+1校時=なかよしタイム「みんなであそぼう」の時間。個または少人数で、粘土、色塗り、折り紙、ブロック等で思い思いに遊んだ後は、運動場に出て、自分で選んだ遊びを楽しんでいました。



【第2週】学校や先生、友達のことをもっと知ろう

	4/15 月	4/16 火	4/17 水	4/18 木	4/19 金
7:45	あさのしたくまじよう	あさのしたくまじよう	あさのしたくまじよう	あさのしたくまじよう	あさのしたくまじよう
8:00	みんなであそぼう 【歌】	みんなであそぼう 【歌】	みんなであそぼう 【歌】	みんなであそぼう 【歌】	みんなであそぼう 【歌】
8:10	みんなであそぼう 【歌】	みんなであそぼう 【歌】	みんなであそぼう 【歌】	みんなであそぼう 【歌】	みんなであそぼう 【歌】
8:25	みんなであそぼう 【歌】	みんなであそぼう 【歌】	みんなであそぼう 【歌】	みんなであそぼう 【歌】	みんなであそぼう 【歌】
8:40	みんなであそぼう 【歌】	みんなであそぼう 【歌】	みんなであそぼう 【歌】	みんなであそぼう 【歌】	みんなであそぼう 【歌】
8:55	園を中心としたあそび	園を中心としたあそび	園を中心としたあそび	園を中心としたあそび	園を中心としたあそび
9:05	ほししょうたんけんまじよう	1から5までのかずをかぞえてみよう(3→1, 2→4, 5→まどめ)			
9:20	えにおはじきをおこう	1から5までのすじをかこう			
9:35	おはじきのかずをかぞえよう【算】	すうじかあとをみて、おはじきをならべよう【算】			
9:50	やすみじかん	やすみじかん	やすみじかん	やすみじかん	やすみじかん
10:00	もっぺんたんけんまじよう	こえにだそう	せんせいのいらいんに	こえにだそう	せんせいのいらいんに
10:15	いだいきせん	えをみておはなし	がっこうをたんけんし	えをみておはなし	がっこうをたんけんし
10:30	はかのらすのどもだちにしこうしようかいまじよう【算】	いろいろなせんをかう	どんなへやがあっ	ひらがなをかこう	どんなへやがあっ
10:45	やすみじかん	やすみじかん	やすみじかん	やすみじかん	やすみじかん

「『なかよしタイム』の後は『まなびタイム』だね」と子供たち。活動時間も、集中が持続する時間や意欲の高まりを大切にしたい子供たちの実態や活動に合わせた時間を設定。

主体的・協働的な学びのスタート！～上内田小～



国語「なんていおうかな」の授業。教室で、生活の様々な場面での言葉のやり取りを考えた後…



多目的室に行って実践！子供たちの「一緒にやろう。」「いいよ。」「ありがとう。」がたくさん聞こえてきました。そこには、ねらいに沿った言葉のやり取りが生まれる環境作りが。「大きなブロック板で頭を突き合わせて相談しながら一つの物を作る姿は、やがてホワイトボードで話し合う姿につながります。(鈴木康浩校長)」

お願い

小中学校の教職員の皆様 ～資料の提供に御協力ください～
昨年度の11月にも依頼させていただきましたが、今年度も園小中接続の取組に関わる資料を以下のフォルダに保存してください。

【市内全職員共有(R:)¥200 市教委提出用フォルダ¥R6¥R6 園小中接続資料】

①研究指定園・校の保育・授業公開について

4つの学びの場を紹介します!
積極的な参加・活用を!

各園・校においては、学園内で互いの教育を見合う機会を設けていただいていることと思います。ありがとうございます。

今年度、文科省委託事業「かけがわ型架け橋カリキュラム」の開発に伴う研究指定園・校の保育及び授業を市内園・校に公開します。これまでの開発会議協議をふまえた保育及び授業を参観していただくことで、掛川市が目指す園小接続のイメージを一緒にふくらめていきましょう。

・おおさかこども園 公開保育	6月6日(木) 9:30~11:00
・大坂小学校 授業公開	6月14日(金) 13:10~13:55
・掛川こども園 公開保育	10月4日(金) 9:30~11:00
・桜木小学校 授業公開	10月8日(火) 13:20~14:05

※参加申込みについては、令和6年4月30日付掛学教第119号(園・小学校)、掛学教第133号(中学校)を参照

②5月18日(土)は、かけがわ乳幼児教育未来学会 無藤教授の記念講演

今年度のかげがわ乳幼児教育未来学会総会の記念講演は、白梅学園大学名誉教授 無藤隆氏による「乳幼児教育と小学校教育の接続について」です。掛川市が取り組んでいる「架け橋カリキュラム」についてもふれていただけることになっています。(各園・校に案内済)

無藤教授は、現在、国立教育政策研究所上席フォロー、文部科学省幼児教育と小学校教育架け橋特別委員会委員長等を務めています。

オンデマンド配信も予定しています。(詳細は、後日連絡します。)



③文科省：幼児教育の遊びを通した学びを小学校で生かす解説資料公開

文部科学省は、4月、幼児教育と小学校の各教科の学びの接続を視覚的にまとめた解説資料『幼児教育と小学校教育がつながるってどういうこと?』や、幼児教育の活動の様子から、学びに発展する芽生えを捉える動画コンテンツを作成・公開しています。

解説資料では、小学校1年生で学ぶ各教科や特別活動の学びについて、幼児教育での活動とどのような関連性があるかを図解しています。また、小学校教員による幼児期までの遊びを通した学びを効果的に取り入れた授業展開例を示しています。

文科省HP

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/mext_02697.html

④掛川市こども希望課：「まなざし通信」発行中

掛川市こども希望課指導主事が各園を訪問(まなざし訪問)し、子供の育ちや、園内環境の工夫等をまとめた「まなざし通信」を発行しています。既に市内各園には送付されていますが、小中学校職員にも学びのある内容となっています。下記フォルダに保存済です。

【市内全職員共有(R)】¥100 教育資料 ¥110 掛川市資料 ¥116 こども希望課資料 ¥まなざし通信

育ちと学びをつなぐ

掛川市教育委員会
園小中接続便り②
令和6年6月28日

6月6日及び14日の研究指定園・校の保育・授業公開に、多くの方に御参加いただきありがとうございました。育ちと学びをつなぐ子供の姿を紹介します。

おおさかこども園5歳児「泡遊び」

完成した!



Aさんは、「泡や泥をやりたくない。」という時期もありましたが、保育者の援助や友達の様子を見て、「固い泡を作りたい」と、いろいろなやり方を繰り返してきました。水が多くて固い泡がなかなかできませんでしたが、水の量や使う道具に気付き、固い泡、満足のいく泡が完成しました。何度も失敗をしながら、おもしろさを体全体で楽しみました。

ねらい(視点)

- ・泥や泡の感触を楽しみ、形作る面白さやイメージを共有する楽しさを感じる。
- ・思いや考えを伝え合いながら友達と一緒に遊びを楽しむ。

ふわ
ふわ!



クリーミーに
なってきたね。

色水を分けてもらおう。



Bさんは、「ちょっとずつ入れるよ。」と1さじずつ水を加えながら、泡立ての続きを始めました。「なんかちょっと、どろどろになってきた。」とスプーンですくってみたり、色水を入れたり、洗面器の石鹸の大きさを触って確かめたりしながら泡立てていました。友達の泡を見て、「わー、とろとろだね。」「できあがったらケーキに塗ってね。」と声を掛けていました。



幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)

⑥思考力の芽生え⑦自然との関わり・生命尊重⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

⑨言葉による伝え合い⑩豊かな感性と表現 ※他にも見てとれる姿がありますが、主なものを記載しています。

保育者の植田里美先生が、2年目の実践として意識したこと

○昨年度のシャボン玉遊びでは、保育者の思いを出し過ぎてしまったため、子供が自然に自分たちで遊ぶことが出来る環境を設定した。

○遊びが進む中で一人一人の気付きやつぶやきを大切に、遊びの場を再構築しながら存分に遊べるようにした。

大坂小学校1年生 生活科「あそびにいこうよ」

本時の目標

シャボン玉遊びを楽しむ活動を通して、「もっと〇〇したいからこうしてみよう」「こうしたらこうなるかな?」などの思いや考えをシャボン玉遊びで表現することができる。【思考力・判断力・表現力等】

今年度の「育ちと学びをつなぐ」第1号でも紹介した、文科省のHPには、『遊びを通した学び』を生かした授業例等が掲載されています。園・校どちらにも参考になります。ぜひ以下をクリック!



[遊びを通した学び：文部科学省 \(mext.go.jp\)](http://mext.go.jp)

うちの骨のところだけのものだと、小さいシャボン玉がたくさんできる!



こうやって振る!



どうやってそんなにいっぱいできた?

子供が、うまくできた理由やできなかった理由等を考えられるような声掛け

私も毛糸を巻こう。太い毛糸がいいな。からまって、うまくいかないな。

優しくやればできるよ。

せーのでやろう!

「園の時にハンガーで大きいシャボン玉を作ったよ。」「もっと大きいシャボン玉を作りたいよ。」という前時の子供の声をもとに材料を準備し、園のように自由に使えるようにした。さらに、道具作りコーナーを設置し、その場で試行錯誤し目標に向かうことができる環境を設定した。



毛糸を割り箸に付けたよ。二重になっているところをゆっくり揺らすと、大きなシャボン玉ができた!



子供は前時に、「1回目は丸い形のシャボン玉を作ったから、いろいろな形のシャボン玉を作りたいよ。針金でハートの形を作るよ。」等、自分の思いをiPadに動画で残した。
→自分の思いに向かって取り組んでいるか教師の意図的な声掛け

授業者の小林万浦先生が、2年目の実践として意識したこと

①「学びの芽生え」から「自覚的な学び」へ ②気づきの質を高める。

※詳細は「大坂小架け橋便りその2」参照【市内全職員共有(R:)¥200 市教委提出用フォルダ¥R6¥R6 園小中接続資料】

→園と連絡を取り合い、年長時の遊びの経験を把握した。

○子供に園の経験を聞き、どんな材料が必要か、どこに何を置くか等、子供と一緒に環境設定を考えた。

○子供が無自覚にやっていることを、教師が意図的に声掛けし、子供に自覚させ、言葉で表出させた。

育ちと学びをつなぐ

掛川市教育委員会
園小中接続便り③
令和6年10月4日

8月22日静岡県幼児教育の理解・発展推進事業都道府県協議会への御参加ありがとうございました

本研修会は、幼児教育に携わる教職員の資質向上を図ることが目的で開催されています。今回は、協議主題が「幼児教育と小学校教育の円滑な接続の推進について」であったため、小学校からも各校1名参加していただきました。掛川市は園28名、小学校22名が参集、10名程がオンデマンド配信にて参加していただきました。

参加者アンケートより抜粋 (他市参加者含む)

- ・互いの教育方法の違いを理解しながら、**子供の育ちが繋がっていく**ようにさらに連携したい。
- ・子供たちをみる保育者のスタンスは学ぶべきことが多く、**どの校種に携わる教員も学ぶべき**だと思った。
- ・掛川市の取組は、**園小中の横や縦の繋がり**と**行政の連携**が見られ、**子供を中心においた取組**をみんなでやっていることが伝わってきた。
- ・保育者と教員で交流したり、公開保育を参観したりする中で、子供の発達や学びは繋がっていることを、どの教員も理解し、**架け橋プログラムが子供の笑顔に直結**することを実感してもらえるとよいと思う。
- ・架け橋プログラムは、どちらかが進めるものではなく、**双方から子供の姿をもとにして橋をかけるもの**だというイメージが具現化され、大変学びの深い一日だった。

かけがわ乳幼児教育未来学会園経営研究部第5回研修会は、幼小の接続についての講話です！

今回の研修会は、以下のとおり北野教授による講話を行います。掛川市が取り組んでいる「架け橋プログラム」に直結する幼小の接続についてのお話をさせていただきます。ぜひ、学校関係の方々も積極的に御参加くださいますようお願いいたします。

日時 令和6年10月29日(火)13:15~16:15

会場 掛川市 SK ホール(掛川市駅前 SK しんきんプラザ4階)

内容 ・講話「幼小の接続について」

講師 神戸大学大学院人間発達環境学研究科教授 北野 幸子 氏

・グループワーク



※参加申込み〆切は10月18日(金)です。詳細はかけがわ乳幼児教育未来学会発出の通知を御覧ください。

お願い

9月27日に、こども希望課が保護者向けのお便りを発行しました。保育者及び教員の皆様もぜひ御覧ください。

今年度も、小学校は、入学説明会で幼児教育と小学校教育のつながりや取組を保護者に紹介をお願いします。また、園は、幼児期の遊びは大切な学びであり、園での育ちや学びが小学校につながっていることを、保護者にお伝え願います。

特別支援教育に関する講話から学ぶこと

学習の苦手さの理解

令和6年5月20日、9月9日 教職員指導技術研修「学級担任に知っておいてほしい講座①②」
講師：大坂小学校 LD 等通級指導教室 藤田 順子 教諭



◎幼児期の力が読み書きの土台になる

- ・家庭や園など、親しい大人や友達との会話や読み聞かせ等
→聞く力、話し言葉の力が育つ
- ・言葉遊びやごっこ遊び
→音韻意識（音の分解・合成）を理解し、言葉で思考する力が育つ
- ・身体や道具を使った活動や遊び

（粗大運動：生活全般、おにごっこ等 微細運動：お絵かき、砂や粘土、手伝い等）
→コントロールする力（姿勢保持・集中・身体全体・手足の末端・気持ち）が育つ

参加者アンケートより抜粋

- ・担任として**子供**をよりよく見て、**理解**していきたい。子供の成功体験を増やせるように手立てを考えたい。
- ・小学校でも遊びながらできることがたくさんある。**身体を使うこと、繰り返すことが大切**であり、1年生の時から子供にとって大事だと改めて実感した。
- ・支援を要する子が支援を受けるためには、「助けて」「教えて」と言える子にすること。そのために1年生から「**支援→できた**」という**経験を積み重ねる**ことがとても大切だとわかった。

園から小学校への滑らかな接続とは～ことばの教室の視点から～

令和6年7月25日 かけがわ乳幼児教育未来学会発達支援研究部第2回講話
講師：大坂小学校言語通級指導教室 榛葉 美哉子 教諭



◎「ことば」の前に～ことばの土台は大丈夫？～

- ・整った生活リズムとバランスのよい食事は脳の成長に欠かせない。
- ・からだの発達にそった運動…筋肉の動かし方、各部位の動かし方の学習
- ・「ことば」は記号（音声、文字）に乗せて運ばれる「ころ」
「ママ」の後に「見て」「来て」の気持ちが乗っている。

伝えたいこと、伝えたい気持ちの育ちが必要。

◎様々な体験（見る、聞く、触る、味わう等）の中で心が育ち、言葉とふれあう。 ⇒「ことばのビル」（左図）を下の階から積み上げる。

いっぱい遊んでいっぱい身体を動かす。大人とのやりとりを大切にします。

参加者アンケートより抜粋

- ・ことばや発達を積み上げるためには、**乳児期からの丁寧な関わり**が必要。
- ・文字の読み書きの前に、「**わかることば**」を増やすことが重要。幼児期のごっこ遊び、粘土、積み木、読み聞かせ等ことばを使った遊びが大切であると知った。
- ・**わからない時に自分から聞いたり、できない時に「頑張ろう」と前向きな考え方がもてたり**するような子に育てていきたい。



- ・「言葉が出ない…」というだけの問題と捉えず、**多面的に**子供を見つめ、関わり、さらに職員間で話し合っ**て園全体で共有**したい。
- ・保護者には**基本的な生活習慣の大切さ、親子関係を大切にすることで心の安定**につながり、ことばの習得につながることを伝えたい。
- ・保護者にとって年長から小学校に上がる時は大きな壁。**小学校の生活を見通し、保護者に寄り添いながらも0.5歩先を進みながら就学支援**をしたい。

どちらの講話も、特別な配慮を必要とする子供（障害・発達に課題のある子供、外国にルーツをもつ子供、様々な家庭環境の子供）だけではなく、どの子供にとっても幼児教育を学校教育につなぐために、必要なことです。そして、これまで架け橋プログラム事業を進める上で、私達が大切にしたいと考えてきたことと重なります。

育ちと学びをつなぐ

掛川市教育委員会

園小中接続便り④

令和6年10月21日

10月4日及び8日の研究指定園・校の保育・授業公開に、多くの方に御参加いただきありがとうございました。育ちと学びをつなぐ子供の姿を紹介します。

掛川こども園5歳児

ねらい

- ・秋の自然に触れ、遊びの中に取り入れたり試したりして遊ぶことを楽しむ。
- ・友達と一緒に歌ったり、触れ合ったりすることの心地よさを感じる。
- ・友達と一緒にのびのびと体を動かしながら、細かい体の部分を意識する。

ひとつどんぐり
ひとつのかお
ふたつどんぐり
ふくのかお

「わらべうた」の終結は
「どんぐりの数え歌」

好きな顔になったら
遊びに戻ろうね。

ひとつ…ふたつ…
みっつは何の顔かな。

「毎日体操」の中で仲間づくり。
先生の合図と一緒にみんなで「1、2、3…」
と数えて、数えた分の人数で集まる。

5はできるかな？

1、2、3、
4、5!

秋の自然物で
重さ比べ

柿が2個の方が
重い!

自ら選ぶ遊びの中で、「やりたいな」と興味・関心を持ち、いろいろな経験ができる環境

マークの数が
合わせて
5になったら
ベルを鳴ら
そう。

この積み木は
あと何枚あれば
いいかな。

他にも、算数につながる遊びや生活の場面はいっぱい!
【参照:桜木小算数科授業案 Ⅱ 掛川こども園との接続】

私の足より
大きい。

動物の足と
大きさ比べ

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)

③協同性⑥思考力の芽生え⑦自然との関わり・生命尊重⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

※他にも見てとれる姿がありますが、主なものを記載しています。

保育者の小倉美保子先生が大事にしたこと

○園では生活や遊びの中で数に触れる経験をした。一人一人の発達に合わせた遊びを提供した。

○個々に合わせた目的で集団活動を行い、遊びから学びへ緩やかにつなげた。

桜木小学校 1年生 算数科「たしざん」

本時の目標

既習事項を基に具体物や言葉、式、図を用いて計算の仕方を考える活動を通して、10のまとまりを作る計算の仕方を考えることができる。【思考力・判断力・表現力等】

子供が自分で分かる方法を自己選択



指

10ぴつたりにするには？

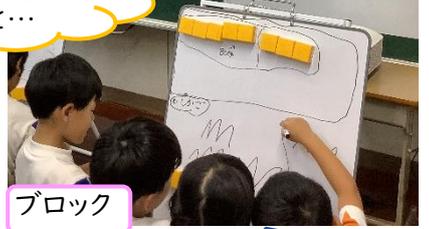


式



絵カード

バッタの絵カードで考えると...

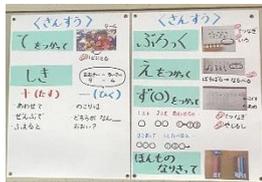


ブロック

前單元「のこりはいくつちがいはいくつ」の中で、子供たちから挙げられた方法のブロック、図、絵、式、指、具体物操作を本單元でも用いた。自分で方法を選択し、『どんな引越し10技』が使えるかを考えた。

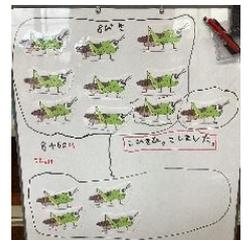
園での経験→日常生活↔学び
◎ブロックをバッタに見立て、虫かごや草の絵も描いていた。実体験で経験したことを学びにつなげる姿があった。 ※開発会議協議より

園との接続を意識した環境設定



- ・教室内で子供たちが自由に席を移動し、同じ方法で取り組む友達と相談できる環境を、様々な教科で設定。
- ・本時につながる今までの学習や他教科の活動内容を掲示。
- ・生き物に関する絵本や算数につながるゲームコーナーの設置。

合科的・関連的な指導 ~特に生活科との関わりの中で~



単元のゴールは、「足し算の引越し10技を使って、生き物マップを完成させよう」。生活科「生きもの大すき」で扱っている生き物マップの数を取り上げて授業を行うことで意欲的に課題に向き合うようにした。見つけた生き物の数量について式に表し、式と具体的場面とを結び付けて繰り返しのある加法を学習した。

授業者の夏目亜佑美先生が大事にしたこと

○掛川こども園の園児を観察し、自分でやりたいことを選んで主体的に遊ぶ姿、その中で自然と友達と関わる姿が印象的だった。

- 既習内容や単元のゴールを掲示することで、子供自身が見通しをもって取り組めるようにした。
- ・子供が自分で考えを作る方法を選択し、同じ方法ごとに席を移動し、自然と対話できるようにした。
- ・教室や1年教室前ホールに、算数科に自然に触れる環境を作り、遊んでいる中で算数科に興味・関心をもつことができるようにした。

今回の「掛川こども園 公開保育資料」及び「桜木小学校 算数科授業案」は、以下のよう
に共有します。ぜひ、御覧ください。
園関係者
私立園:ボックス保存
公立園・認可外保育所:メール送信
学校関係者
【市内全職員共有(R:¥200 市教委提出用フォルダ ¥R6¥R6 園小中接続資料¥桜が丘学園】に保存

育ちと学びをつなぐ

掛川市教育委員会
園小中接続便り⑤拡大版
令和7年2月18日

市内全園・小学校に書籍を配付

過日、以下にある研修会にて、年長児が在園する市内全園及び小学校に、文科省著作「幼児教育と小学校教育がつながるってどういうこと？」を配付しました。これは、「育ちと学びをつなぐ」第1・2号で紹介した文科省HPの書籍版です。園の「遊びを通した学び」と小学校の「各教科等における単元等」へのつながりについて、実際の授業展開例として紹介されています。育ちと学びの見通しをもった保育、育ちと学びをふまえた教育を行う上で参考になります。

ぜひ、積極的な活用をお願いいたします。

[遊びを通した学び：文部科学省 \(mext.go.jp\)](http://mext.go.jp)



「第2回 幼児教育と小学校教育の円滑な接続に向けた研修会」開催

令和7年1月23日に第2回幼小接続研修会を開催し、小学校教員22名・園保育者35名が参加しました。前半は、「幼保小架け橋プログラム事業」研究指定園・校の実践発表を行いました。職員の交流、子供同士の交流、保育・授業づくり（主に「ジョイント活動」）において意識したこと、環境設定、成果・課題について、具体的な実践とともにお話いただきました。研究指定園・校の先生方の熱意と工夫がたくさん詰まった実践発表から、多くの気付きや学びがありました。

研究指定園・校の実践発表での気付きや学び （参加者「研修アンケート」より抜粋）

- お互いにつながりへの意識をもち、**お互いが主体的に「知ろう」という姿勢**の大切さを学んだ。
- 互いが**子供たちの過ごす環境、学ぶ環境を**模倣し合い、安心につながっている**。
- 年度初めに**、園小の職員間での交流を通して**関係を築くことが全てのスタート**だと感じた。
- ジョイント活動を通して子供の育ちの連続性**を感じた。
- 小学校に入ってから「○○ができていない」という話も聞き、保育をしながら気になることが多かったが、このような連携で、園で何を経験していたかを知ってもらうことができ、**小学校でも引き続き取り組んでくれるという安心感**があると思った。（園）
- 園小が互いの教育内容を把握し、**学園の重点目標に向けてベクトルを合わせる**ことで、より充実した教育活動が行えると感じた。
- 園での遊びの中での自己選択や試行錯誤する経験を**生かして、どの授業でもつないでいきたい。（小）



左から
掛川こども園
小倉 美保子 教諭
桜木小学校
夏目 亜佑美 教諭



左から
おおさかこども園
植田 里美 教諭
大坂小学校
小林 万浦 教諭

後半のグループワークでは、学園（または小学校区）で、今年度の振り返りと次年度のカリキュラムの方向性の共有や「ジョイント活動」を核に保育・授業のつながりについて意見交換をしました。

グループワークでの気づきや学び

（参加者「研修アンケート」より抜粋）

小学校の参加者の声

園の参加者の声

園の先生から効果的な支援（援助）の方法や、環境づくり、学習のねらいに迫る活動のヒント等を学ぶことができた！

架け橋プログラムの推進からどんどん交流が可能になった今だからこそ、子供も職員もたくさん交流してよりよい接続につなげたい！

ジョイント活動を行うにあたり、お互いがウインウィンになるような職員交流（情報交換）をしたい！



来年の活動が楽しみ！

園の取組を大切にしてくれていることに安心！

早速、園の先生がたくさんアイデアを教えてください！

これからのジョイント活動に期待がもてた！

栽培やお店屋さん、物作り等、園の取組の様子を知ることができたので、それをふまえて生活科の授業を考えたい！

学園内の学校の先生たちも円滑な接続に向けて積極的に考えてくれていることがわかり心強い！

今後自園または自校・小学校区・学園で意識したいこと、取り組みたいこと

（参加者「研修アンケート」より抜粋）

◎全職員で架け橋の取組を共有し、接続の必要性を認識しながら取り組みたい。

【園の保育者】

○地域で子供が育つことに見通しをもち保育を考えたい。

○学校の先生向けに、1週間程度の幅をもたせた保育参観を行ってみたい。

○今年度、学園で公開保育をした。学校の先生方の気づきや視点を知ることができたり、園の環境を見ただけができたりとメリットがたくさんあったので、公開保育を増やしていきたい。園と小学校に限らず、園と中学校、園と園の交流も増やしたい。

○学園の職員間の関係を築くことが大切。園では学びの芽生えを大切に、保育内容を丁寧に広げたい。

【学校の教員】

○職員全体及び学園内で、ゼロからのスタートではない1年生を迎えられる体制を整えたい。

○小学校はもっと門戸を広げて、積極的に関わりたい。園の先生と話をする機会も意図的に作り、職員同士の関係を深めたい。

○1年生だけではなく、全ての学年で、前年度までの学びを想起させる声掛けを必ず取り入れたい。

○園での子供の育ちをつなげ、子供が「学校が楽しい」と思う授業をしたい。

○来年度から学園の組織に位置付けられる「幼小接続部会」を有効活用したい。

「かけがわ型架け橋カリキュラム」の作成を進めてくださりありがとうございます。

第2回幼小接続研修会では、「かけがわ型架け橋カリキュラム」の取組の流れについて説明しました。

令和7年度から、市内年長児在園の全園と小学校で運用を開始します。

幼小接続研修会の話し合いを基に、今年度中に、現年長児担任・1年担任等の学年部を中心に、各園・小学校でカリキュラムの作成をお願いします。

来年度から全ての学園で接続部会が設置されます。来年度4月に、子供の実態に合わせて加除修正し、学園接続部会で共有した後、第1回幼小接続部会（令和7年4月23日実施予定）に持参していただきます。

今ある組織や会合を生かし、園小連絡会、幼小接続研修会、学園の一貫教育研修会で、実践状況の共有や見直しを図ります。各園・小学校では、カリキュラムに基づいた実践、実践記録の蓄積をします。

また、「アプローチカリキュラム」、「スタートカリキュラム」は、各園・小学校の実態に合わせた作成及び運用をお願いします。

来年度は、まずカリキュラムに基づいた実践をやってみる！
記録を蓄積する！

8 「かけがわ型架け橋カリキュラム」の取組の流れ

以下のスケジュールを基本にして、「かけがわ型架け橋カリキュラム」に取り組みましょう。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
01	02	03	04						05	06	07	08
第一回学園接続部会 今年度カリキュラム完成	第一回園小連絡会	第一回幼小接続研修会	一貫教育研修会 学園全体研修会 公開保育・授業 カリキュラム見直し						第二回学園接続部会	第二回幼小接続研修会	第二回園小連絡会	次年度カリキュラム(案)作成
(各園・校)カリキュラムに基づいた実践、実践記録の蓄積								(学園、小学校区)実践状況の共有、見直し				

01 第1回学園接続部会	02 第1回園小連絡会	03 第1回幼小接続研修会	04 一貫教育研修会
昨年度末に前任が作成したカリキュラムを、今年度の子供の実態に合わせて加除修正したものを持ち寄り、共有する。学園で統一したジョイント活動を二つ位置付ける。	①1年生の子供の姿を見て、育ちを共有する。 ②カリキュラムを基に、実際の子供の姿から保育・授業のつながりを話し合う。	①小学校区または学園で、今年度実施するジョイント活動について語り合い、互いの教育の理解を深める。 ②カリキュラムを持ち寄り他園・校と情報交換をする。	①保育・授業を見合い、全職員の互いの教育の理解を深める。 ②カリキュラム実施状況の共有と見直しをする。
05 第2回学園接続部会	06 第2回幼小接続研修会	07 第2回園小連絡会	08 次年度カリキュラム作成
ジョイント活動を核に、今年度の実践の振り返りと、次年度のカリキュラムの方向性(目指す子供の姿、職員と子供の交流計画)を共有する。	①今年度のジョイント活動の実践を中心に他園・校と情報交換する。 ②小学校区または学園で、次年度のカリキュラムについてジョイント活動を核に保育・授業のつながりを話し合う。	①年長児の子供の引継ぎをする。 ②園・学校生活の一日の流れ等について互いに聞き合う。(p.7参照)	今年度の成果と課題をふまえ、学園接続部会と幼小接続研修会の話し合いを基に、担任・学年部を中心に次年度のカリキュラムを作成する。実践できそうなジョイント活動をカリキュラムに複数位置付ける。

上記は、本書のp.7,8の **園・校** **小学校区** **学園** **市** の取組内容と連動しています。

育ちと学びをつなぐ

掛川市教育委員会
園小中接続便り⑥
令和7年3月3日

園小の接続が進むと見られた変容～研究指定園・校の実践より～

研究指定園・校では、「かけがわ型架け橋カリキュラム Ver. 1」を実践する中で、園小の円滑な接続が進みました。教職員が子供の捉え方を変えて接したことで、子供の姿に様々な変容が見られました。

園児の姿の変容

経験したことを思い出しながら、考えていることを言葉で伝える
園児の姿の増加



泡に色をつけた
たいから色水
がほしいな。

円滑な学校生活の
スタート



園の環境を
生かした場で
子供が安心して
学習

児童の姿の変容

主体性を発揮する児童の姿の増加



ブロックで
考えると説明
できるよ。

今日は、
ブロックで
考えよう。

小学生になった自分をイメージ



小学校に
入ったら私
も作りたい。



小学校は、
こういうとこ
ろなんだな。

友達と協働的に関わる
児童の姿の増加

せーので
やるう。



どう思う？

小学校への期待・憧れ



1年生は
優しいな。

小学校への
不安解消



小学校が
楽しい。

登校渋りの児童の減少

保育者・園の変容

教員・小学校の変容

園と小学校の関わりが増え、**顔が見える親しい関係**になった。

互いの保育・授業参観の時に、保育者・教員の意図を考えたり、園と小学校のつながりを意識したりするようになった。

保育への意欲が高まった。

園から小学校＝人生の中の初めての接続という大切な期間を担っていると再認識

保育の見直しにつながった。

園の遊びが小学校の学びにどのようにつながるかが分かった。

子供たちが**様々な体験・経験**をするように心掛けた。

入学当初の時間割を弾力的にした。

小学校1年生はゼロからのスタートではなく、**園での遊びを通した経験が土台**になっているという意識の変化。

園での経験を生かした**子供主体の授業づくり**へ

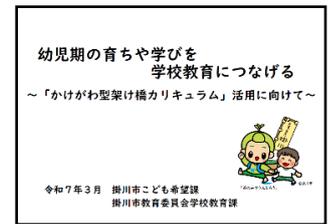
- ・教員が子供の「〇〇したい」を引き出す。
- ・教員が子供のもっている力を引き出す。
- ・教員が園小接続以降6年間での発達段階に応じた子供の育成を意識する。
- ・子供が見通しをもつ。
- ・子供が課題解決に向かう方法を自己選択する。
- ・子供が協働的に学ぶ。

「幼児期の育ちや学びを学校教育につなげる～「かけがわ型架け橋カリキュラム」活用に向けて～」
(今年度未完成予定冊子)より

開発会議のまとめ

3年間の文部科学省委託「幼保小の架け橋プログラムに関する調査研究事業」に係り、計21回の開発会議を行いました。今年度は、昨年度からの研究指定園・校の実践をふまえ、開発会議で協議したことを、「幼児期の育ちや学びを学校教育につなげる～『かけがわ型架け橋カリキュラム』活用に向けて～」(以下、冊子と表記)にまとめました。

校長会、主幹教諭・教務主任研修会、第2回幼小接続研修会等でも、冊子について紹介してきましたが、完成次第、市内の園小中の全職員に配付します。(園…3月末配付予定、小中…4月上旬配付予定)ぜひ、学園の研修や幼児教育施設の保育参観等での積極的な活用をお願いいたします。冊子の内容については、令和7年度第1回幼小接続研修会等でお伝えします。



開発会議委員の言葉

【委員長 田宮 縁 氏より】

- 掛川市は、ジョイント活動という具体から研究を始めた。具体的な活動の抽象化が、他地域でも活用できる汎用性の高いカリキュラムとなった。
- 成果は、①協働してカリキュラムを開発するPBL(問題解決学習)を行った。
②繰り返し協議を重ねた(=探究した)ことで高みに迫った。
③子供観が変容した。

開発会議の委員自身が、主体的・対話的で深い学びを体現した。

掛川市の教育は熱い！
掛川市に勤務する者としてうれしい！



【アドバイザー、副委員長、委員(研究指定園・校以外)より】

- 掛川市の園小の学びのつながりは、県内で注目されている。今後、掛川市作成の冊子は、県内で活用されるだろう。
- 園同士の横のつながりは非常にめずらしい。掛川市は、かけがわ乳幼児教育未来学会で横につながり、学園で縦につながることが可能である。来年度、未来学会園経営研究部で冊子の内容を広めていく。
- 現行の学習指導要領でも、幼小接続の大切さが明記されており、ますます大切になる。冊子の内容は、小学校の個別最適な学びや探究とつながり、授業改善を促進する。全職員が理解する必要がある、全校で取り組む価値がある。教育の質を高める好機になる。
- 掛川市は早くから幼小接続に着目していた。じわじわと縦のつながりが強まった。今後、どのように実践するかを、委員それぞれができることを見極めて取り組みたい。
- 自学園の職員の話合いも子供同士の交流も変化してきた。小学校入学後に「園の時はどうだった？」と子供の経験を聞き、学びをつなげてくれることは、子供にとって幸せなことである。

冊子の内容を周知したい！

【研究指定園・校の委員より】

- 互いの考えを伝え合えた。園・小の距離が縮まり、職員の意識が変わった。
- 担当職員が変わっても、職員間の交流を継続させたい。
- 園から小学校へ送り出した子供の成長や学びが繋がっていることを実感できた。他の職員にもつなげていく。
- 幼児教育を知ることによって学校教育でもできることが広がった。架け橋の考え方を基盤に、「学びが繋がる授業」を校内研修で取り組んでいく。園小中のつながりを意識したい。
- 小学校の教員が園を参観した際の感想が、表面的なものから中身のあるものになった。
- 今までの1年生担任の自分に、「もっと1年生はできるよ。」と言ってあげたい。



開発会議委員及び研究指定園・校の皆様、御尽力いただき心より感謝申し上げます。